

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	静岡大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シズオカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	地域創造インターンシップ1
	学部・研究科等名	学生支援センター
	担当教職員名・役職	宇賀田 栄次・准教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	51
	受入企業等数	29
	受入企業等名	鈴与商事、共立アイコム、田丸屋本店、タカラ堂、平井工業、静岡トヨタ自動車、ドコモCS東海、静岡信用金庫、芙蓉会計事務所、浮月、すみやグッディ、たちばなリース、東名自動車学校、中央防犯、お仏壇のやまき、デロイトトーマツ税理士法人、平和みらい、静岡赤十字病院、富士ゼロックス静岡、久保田建装、JTB中部、スマートブルー、山崎工業、横山事務器、ミサワホーム静岡、タカラエムシー、静岡ガス、クリアファーム、トーカイシティサービス(株式会社等省略)
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目での探求学習の実証機会として就業体験を位置付けている。受入側からの課題提示もあるが、課題解決はあくまで実証機会の方法と位置付けている。課題解決型か日常業務型かということではなく、学生が課題をもって取り組む、つまり、事前学習によって問いと仮説を立て、就業体験によって実証し、事後学習によって言語化するという一連の学習サイクルをインターンシップによってまわしている。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		28年度に設置された新しい教育プログラム「地域創造学環」の2年生(定員50名)の選択科目として開講した。地元企業経営者の奉仕団体である静岡ロータリークラブ(静岡RC)との教育連携講座であり、静岡RC連携講座委員会が運営窓口となり、希望学生全員の受け入れとともに事前学習の講義を担っている。「地域創造学環」のDP、CPとも深く関連し、企業活動を通じた地域課題解決人材の育成を目指している。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他

要素③	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	事前学習前にレポートを課すことで事前学習講義を反転学習機会として実施している。講義は静岡RCの講師がグループワーク形式により行い、4つのテーマについて問いと仮説立てを促す。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	静岡RC連携講座委員メンバーが数社ずつ受入企業を受け持ち、実習中のトラブル等への対応を行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習は調べ学習によるレポート、講義(反転授業、グループワーク)で構成する。社会で求められ、地域課題解決人材の要素となる4つのキーワード「コミュニケーション」「チームワーク」「リーダーシップ」「チャレンジ」について調べ学習、講義を通して学生が問いと仮説を立て、インターンシップで取り組む課題と目標を主体的に設定する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中は、毎日日報に記入し日々の体験を振り返るとともに、指導役担当者からの評価とフィードバックをもらう。事後は、事前学習で立てた仮説に対する結果と考察をポスターにまとめ、発表する。成果発表会ではポスター発表をもとに学生、教職員、指導役担当者が投票を行い優秀者が決定される。優秀者は静岡RC例会での口頭発表を行う。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中は、担当教員と静岡RC連携講座委員メンバーが密に連携し、実習中のトラブル等への対応、学生の状況確認を行っている。静岡RC連携講座委員メンバーが数社ずつ受入企業を受け持つことで報告やトラブル対応のルートが確立している。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	独自の「実習評価シートA(取組姿勢評価)」について事前に自己評価したものと、事後に企業側から評価されたものを比較考察を行っている。また、ポスター発表についてはルーブリックを作成し、学修成果の達成度を学生、企業、教員で共有している。加えて「地域創造学環」全体として入学後、半年ごとのPROGIによる汎用的能力の測定を実施している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間12日間(うちインターンシップ実施期間5日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	調べ学習(1日)事前学習講義(5日)、インターンシップ(5日間以上)、成果発表会(1日)の計12日となる。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している

	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習で静岡RC会員企業が講師を担うだけでなく、静岡RC連携講座委員会と担当教員は授業開始前と授業終了時に連携会議を開き、授業改善についても取り組んでいる。また、受入前には担当教員が企業の指導役対象に説明会を開催し、インターンシップでの指導方法、ゴールや教育的効果について共有している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	静岡大学学務情報システム シラバス検索 <a href="http://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on">http://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on</a>
問い合わせ先	大学等名	静岡大学
	担当部署名	学生支援センター
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	宇賀田 栄次
	電話番号	054-238-4985
	メールアドレス	ugata.eiji@shizuoka.ac.jp